

## 甘ったれ

大森 海太

近ごろ大リーグの大谷翔平の通訳が賭博容疑で取り調べられたことが話題になっている。この詳細は別として私の関心をひいたのは、米国で何年も活躍している大谷が、いまだに通訳をつけているということである。

そういえばかのイチローもそうだったし、ゴルフの松山英樹だって通訳なしにはテレビのインタビューも受けられないようだ。これらの選手たちを甘ったれとは言わないうが、でも日々海外で活躍する一流のプロとしては何か物足りないような気がする。それにひきかえ申ジエをはじめとする韓国の女子プロゴルファーは、英語はもとより日本語だってけっこう流暢に話すトリリンガルたち、逞しいものだ。

日本勢ではフィリッピン・ハーフの笹生優花がスピーチを無難にこなしている。

話は変わるが、近ごろ親の金で海外に留学している日本の若者たちは、どういっわけかその国の人たちとは交わらず、日本人だけで群れたがる傾向があると聞く。

これではわざわざ高い金を払って外国生活を経験する意味がないし、言葉だって上達するはずがない。海外で気の合った日本の仲間と楽しくやっているただの甘ったれというしかない。

一方ペンクラブの諸氏のなかには海外駐在経験のある方が多いが、皆さん言葉ではご苦労を重ねながらも、それを乗り越えて立派に活躍されてきたものと拝察する。

不肖私も駐在経験はないが、海外出張の失敗談は枚挙にいとまなく、毎度冷や汗をかきながらも下手な英語でなんとか切り抜けてきた。

やはり人間は切羽詰まらないと目が覚めないものらしい。

その点、先ほどの若者の例は別にしても、最近の日本は世界の修羅場を避けて、とかく身内だけの安易な取組みに流れているような気がする。

島国日本はたいへん住みよいところだから無理もないが、わが国の先端産業が世界に後れを取っているのも、このへんに一因があるのかもしれない。

いつまでも甘ったれてるんじゃないよ！ 飲んだくれの爺さんは敢えて苦言を呈する次第である。